

見するよう約束した。この借室問題は、實は行きかゝり  
があつて、最後までわかりあつて来たのである。それは  
去る二月折りから讀賣報知労働争議の旋風裡に主役であ  
る編輯局長鈴木東民氏が同志數名とともに来訪して「勞  
働組合啓蒙協議會」事務所として協調會の全座を借受け  
たいと申込んだ。會館の講堂は運輸省で使用中心、四  
階の空室は中央労働委員會用として約束おみだりで断つ  
たのだが、その時鈴木氏は「これはG、H、Qで諒解  
してゐることだ」といふので、ヒワクス中尉の牛紙を見せ  
たのであつた。今度ハシワール氏の申出は、その再燃だ  
かと直覺された。

翌五月廿日ハシワール氏が来訪したので、前日の書類

は諒解し協調會の援助を承知したという言質を得てから  
空室の借用者は鐵鋼印刷等の労働組合であることとを確  
しおめ、労働者に申立てる協調會としては貸室について  
も勞資いかに備するわけにいかぬことを説明して  
、名室を案内した。協調會部内には、「これは會館内に  
一徹の橋頭堡かできることになるから、絶対に拒絶すべ  
し」という硬論があつたが、協調會の運命を決するおれ  
知れない重要書類をG、H、Qに提出したばかりのこの  
際、二月から行きかかりのある借室問題をむげにはお  
返すには、事態はあまりにも微妙なところに來てゐるの  
である。それを結局玄關左側の小室だけは、運輸省の荷物  
さえ取片づければ利用されるから、これを最後の安全弁